

本資料は、経済産業記者会、経済産業省ペンクラブ、農政クラブ、農林記者会、文部科学記者会、科学記者会、厚生労働記者会、重工業研究会、本町記者会に配布しています。



一般財団法人バイオインダストリー協会

報道関係者 各位

第 10 回「バイオインダストリー大賞」「大賞 特別賞」 受賞者決定！

（一財）バイオインダストリー協会（会長：吉田稔）は、「再生医療等製品『アムシェプリ』の創製」の業績に対して、吉田賢司氏を代表者とする住友ファーマ株式会社、株式会社 RACTHERA、京都大学の共同研究グループ（他家 iPS 細胞由来ドパミン神経前駆細胞の研究開発グループ）に第 10 回「バイオインダストリー大賞」を贈ることを決定しました。また、バイオインダストリーの発展のために新しい分野を拓くことに貢献した、大阪大学 大学院医学系研究科 武田朱公氏による「アイトラッキング技術を利用した次世代型認知症検査法の開発と臨床応用・海外展開」の業績に対して、第 10 回「バイオインダストリー大賞 特別賞」の授与を決定しました。

「バイオインダストリー大賞」は、2017 年に（一財）バイオインダストリー協会が 30 周年を迎えたことを機に、次の 30 年を見据えて“最先端の研究が世界を創る—バイオテクノロジーの新時代—”をスローガンにスタートしたもので、バイオインダストリーの発展に大きく貢献した、または、今後の発展に大きく貢献すると期待される顕著な業績を表彰し、今年で 10 回目となります。

（公財）川崎市産業振興財団 副理事長、ナノ医療イノベーションセンター センター長、東京大学名誉教授 片岡一則氏を選考委員長とする選考委員会による厳正な審査を経て、大賞 1 件、大賞 特別賞 1 件を決定しました。

なお、贈呈式・受賞記念講演会は来たる 10 月 7 日（水）、国際的なバイオイベント「BioJapan 2026」の会場（パシフィコ横浜）にて行われます。詳細につきましては、追ってご案内いたします。

＜バイオインダストリー大賞受賞者＞

（敬称略）

受賞者	所属・役職
吉田 賢司 よしだ けんじ	株式会社 RACTHERA 事業推進部長 兼 住友ファーマ株式会社 再生・細胞医薬推進室長
木村 徹 きむら とおる	住友ファーマ株式会社 代表取締役社長 株式会社 S-RACMO 取締役会長 株式会社 RACTHERA 取締役会長
高橋 良輔 たかはし りょうすけ	京都大学 総合研究推進本部 参与 医学研究科 多系統治療学講座 特定教授
高橋 淳 たかはし じゅん	京都大学 iPS 細胞研究所 教授、所長補佐
澤本 伸克 さわもと のぶかつ	京都大学 医学研究科 人間健康科学系専攻 教授

バイオインダストリー大賞受賞業績

「再生医療等製品『アムシェプリ®』の創製」

住友ファーマ株式会社、株式会社 RACTHERA、京都大学の共同研究グループ（他家 iPS 細胞由来ドパミン神経前駆細胞の研究開発グループ）は、中脳ドパミン神経細胞の減少による運動障害を主徴とする進行性疾患で、対症的な薬物治療しか存在しなかったパーキンソン病に対し、iPS 細胞を原料とした再生医療等製品「アムシェプリ®」の開発に成功しました。

iPS 細胞という新規性の高い原料を用いた製造・品質管理技術の確立から、手術法・画像診断・免疫抑制を含む治療システム全体の構築まで、非ヒト霊長類を用いた非臨床研究を軸に、産学が一体となって課題を克服しました。他家 iPS 細胞由来ドパミン神経前駆細胞を脳内に移植する新たな治療法を世界で初めて実用化し、医師主導治験では移植後 24 ヶ月にわたり運動機能の改善が確認され、再生医療等製品「アムシェプリ®」として条件及び期限付承認を取得しました。

本業績は、基礎研究から社会実装までをシームレスに結びつけた産学連携の理想的なモデルを示すとともに、再生医療を持続可能なバイオインダストリーとして成立させる道筋を切り拓いた点において、第 10 回バイオインダストリー大賞に最も相応しいと高く評価されました。

＜バイオインダストリー大賞 特別賞受賞者＞

（敬称略）

受賞者	所属・役職
武田 朱公 たけだ しゅこう	大阪大学 大学院医学系研究科 臨床遺伝子治療学寄附講座 准教授 大阪精神医療センター こころの科学リサーチセンター 認知症ユニットリーダー

バイオインダストリー大賞 特別賞受賞業績

「アイトラッキング技術を利用した次世代型認知症検査法の開発と臨床応用・海外展開」

大阪大学大学院医学系研究科の武田朱公准教授は、認知症診療の現場で感じた課題意識を出発点に、アイトラッキング技術を活用した革新的な認知機能評価法を独自に開発しました。約 3 分の映像を注視する被検者の視線をスマートデバイスで記録・解析し、認知機能を定量評価する本法は、従来の問診式検査と比較して短時間かつ客観的であり、言語依存性が極めて低いことが大きな特徴です。

本技術を基盤として大学発ベンチャー（株式会社アイ・ブレインサイエンス）を設立し、産学連携により開発を推進した結果、2023 年に認知症領域では日本初の神経心理検査用プログラム医療機器（SaMD）として薬事承認を取得、2025 年には保険適用を実現しました。企業との提携により全国 400 以上の医療機関に導入されるとともに、世界 13 ヶ国での特許取得、4 ヶ国での薬事承認など、国際展開も着実に進んでいます。

言語を介さず汎用端末のみで実施可能な本法は、世界標準の認知症スクリーニング法としての発展が期待されます。アカデミア発の独創的なシーズを実用化・産業化・国際展開へと結実させた本業績は、バイオインダストリーの発展のために新しい分野を拓き、卓越した新価値を創出したものであり、バイオインダストリー大賞 特別賞に相応しいと高く評価されました。

＜大賞選考委員会＞

(五十音順、敬称略)

委員長	片岡 一則	(公財) 川崎市産業振興財団 副理事長 ナノ医療イノベーションセンター センター長、東京大学 名誉教授
委員	石塚 博昭	三菱ケミカル (株) シニアエグゼクティブコンサルタント
	入村 達郎	順天堂大学 大学院医学系研究科 客員教授 東京大学 名誉教授
	大隅 典子	(独) 日本学術振興会 理事 東北大学 名誉教授・客員教授
	太田 明德	中部大学 監事、東京大学 名誉教授
	久保田 文	(株) 日経 BP 編集 DX 室長 兼 医療メディアユニット 主席研究員
	久保庭 均	Renzoku Biologics (株) 代表取締役 CEO
	竹山 春子	早稲田大学 理工学術院 教授
	辻村 英雄	川崎重工業 (株) 社外取締役
	鄭 雄一	東京大学 医学系研究科・工学系研究科 教授
	中村 聡	東京科学大学 名誉教授
	三輪 清志	(一社) バイオ産業情報化コンソーシアム 顧問
	村井 真二	(株) 安川電機 理事 ロボット事業部 エンジニアリング部 部長
	吉田 尚弘	東京科学大学 地球生命研究所 名誉教授・特任教授
	吉松 賢太郎	(株) アークメディスン 監査役

【ご参考資料】

＜バイオインダストリー大賞 受賞理由(詳細)と略歴＞ 敬称略

【バイオインダストリー大賞 受賞業績と受賞理由(詳細)】

「再生医療等製品『アムシェプリ®』の創製」

住友ファーマ株式会社、株式会社 RACTHERA、京都大学の共同研究グループ（他家 iPS 細胞由来ドパミン神経前駆細胞の研究開発グループ）による本研究は、中脳ドパミン神経細胞の進行性減少によって運動障害を引き起こすパーキンソン病（PD）に対し、他家 iPS 細胞由来ドパミン神経前駆細胞を脳内に移植する新たな治療法を世界で初めて実用化し、再生医療等製品「アムシェプリ®」として条件及び期限付承認を取得したものである。

PD は世界で数百万人以上が罹患する神経変性疾患であり、病態の進行とともに薬物治療の効果が持続しなくなり、不随意運動などの副作用が生じるなど、症状のコントロールが困難になる。長年にわたり対症的な薬物治療しか存在しなかった PD に対し、細胞移植による神経機能の根本的な回復を目指すアプローチは、治療概念そのものを転換する可能性を有している。ドパミン神経前駆細胞の移植という概念自体は以前から研究されてきたが、iPS 細胞という科学的にも規制的にも新規性の高い原料を用いて、研究段階から実用医療へと昇華させた点に本業績の際立った独創性がある。

本研究開発において特筆すべきは、非ヒト霊長類（カニクイザル）を用いた非臨床研究を中核に据えた戦略である。ヒトと同等の解像度で移植細胞の生着・機能・安全性を評価し、その結果を基に臨床で用いる細胞数、手術法、画像診断法、免疫抑制レジメンを体系的に確立した。これにより、細胞治療を「実行可能な医療」として完成させ、非臨床から臨床へのシームレスな橋渡しを実現した。

臨床段階においては、京都大学医学部附属病院において多診療科・多専門領域によるチーム医療体制が構築された。医師主導治験では、PD の運動症候を評価する国際標準指標（MDS-UPDRS パート 3 スコア）を用い、服薬効果を除いたオフ時の運動機能を 24 ヶ月にわたり観察した。その結果、通常の薬物治療患者では悪化を示す自然経過に対し、移植治療群では高得点が安定的に維持され、運動機能の改善が示された。また、過去の胎児中脳細胞移植で問題とされた移植片由来ジスキネジアは認められず、MRI 評価でも移植細胞の異常増殖は確認されなかった。さらに、¹⁸F-DOPA PET により、被殻におけるドパミン産生能の増加が確認され、移植細胞の生着とドパミン産生、そして腫瘍形成が確認されないことを示した。これらの成果は国際的インパクトの高い学術誌『Nature』にも報告され、国際的な注目を集めた。

iPS 細胞製品特有の品質ばらつき、同等性・同質性評価手法の開発といった前例のない薬事上の論点に対しては、膨大なデータを基に規制当局との対話を重ね、先駆け審査指定を受けて承認取得に至った。これは世界で iPS 細胞由来再生医療等製品に求められる品質管理手法を具体化した初めての取り組みとして、国際的にも高く評価されている。また本業績は、周辺産業の発展にも大きく貢献した。無菌製造、品質管理、輸送・保管、臨床現場への安定供給といった、従来医薬品とは異なるバリューチェーンの構築を主導し、再生医療を持続可能なバイオインダストリーとして成立させる現実的モデルを示した。

本研究開発の成功の源は、京都大学と住友ファーマが 2014 年から開始した「スクラム型」の産学連携体制にある。研究段階から企業が AMED 事業に参画し、アカデミアの知見を企業側の開発・品質設計に即座に反映させるとともに、規制当局との対話においても産学が一体となって対応した。基礎研究から社会実装までを一貫して推進したこの協働モデルは、今後の再生医療分野における産学連携の理想的な在り方を示すものである。

本業績は、世界初の iPS 細胞由来の再生医療等製品の創製にとどまらず、再生医療の研究開発モデルとして持続的な波及効果をもたらす成功事例であり、日本発 iPS 研究の成果を製品承認という形で社会実装した点で大きな社会的インパクトを有する。これらの点が高く評価され、第 10 回バイオインダストリー大賞の受賞に至った。本業績が、PD をはじめとする神経変性疾患の治療に新たな地平を切り拓き、国内外のバイオインダストリーの発展にさらに寄与することが期待される。

◆受賞者 吉田 賢司（よしだ けんじ）

株式会社 RACTHERA 事業推進部長 兼 住友ファーマ株式会社 再生・細胞医薬推進室長

略歴

2000 年	大阪大学薬学部製薬化学科 卒業
2005 年	大阪大学大学院薬学研究科 博士後期課程修了 博士（薬学）
2005 年	大日本住友製薬株式会社（現住友ファーマ株式会社）ゲノム科学研究所 研究員
2010～2012 年	慶応義塾大学医学部生理学教室 研究員
2013 年	大日本住友製薬株式会社 再生・細胞医薬事業推進室 ジュニアフェロー・主席研究員
2014 年～現在	京都大学 iPS 細胞研究所 臨床応用研究部門 神経再生研究分野 共同研究員
2018 年	大日本住友製薬株式会社 再生・細胞医薬事業推進室 ティッシュエンジニアリンググループマネージャ
2023 年	住友ファーマ株式会社 再生・細胞医薬事業推進室 パーキンソン病プログラム担当オフィサー
2025 年～	株式会社 RACTHERA 事業推進部長 兼 住友ファーマ株式会社 再生・細胞医薬推進室長

主な受賞・栄誉

2005 年	日本薬学会近畿支部奨励賞
--------	--------------

◆受賞者 木村 徹（きむら とおる）

住友ファーマ株式会社 代表取締役社長

株式会社 S-RACMO 取締役会長

株式会社 RACTHERA 取締役会長

略歴

1984 年	大阪大学基礎工学部生物工学科卒業
1989 年	京都大学大学院理学研究科生物物理学専攻修了（理学博士）
1989 年	住友化学工業株式会社入社
1992～1993 年	九州大学受託研究員
1992 年	住友製薬株式会社（現住友ファーマ株式会社）へ移籍
1993～1994 年	ハーバード大学客員研究員
2013 年	大日本住友製薬株式会社 再生・細胞医薬事業推進室長
2024 年～	住友ファーマ株式会社 代表取締役社長、株式会社 S-RACMO 取締役会長
2025 年～	株式会社 RACTHERA 取締役会長

◆受賞者 高橋 良輔（たかはし りょうすけ）

京都大学 総合研究推進本部 参与/医学研究科多系統治療学講座 特定教授

略歴

1983 年	京都大学医学部卒業
1999 年	理化学研究所脳科学総合研究センター・チームリーダー
2005 年	京都大学医学研究科臨床神経学 教授
2024 年～	京都大学 総合研究推進本部 参与/医学研究科多系統治療学講座 特定教授

主な受賞・栄誉

2021 年	MDS-AOS Yoshikuni Mizuno Lectureship Award
--------	--

◆受賞者 高橋 淳（たかはし じゅん）
京都大学 iPS 細胞研究所 教授、所長補佐

略歴

1986 年 3 月	京都大学医学部 卒業
1986 年 4 月	京都大学医学部脳神経外科 研修医
1993 年 3 月	京都大学大学院医学研究科博士課程修了 博士（医学）
1993 年 12 月	京都大学医学部脳神経外科 助手
1995 年 1 月	米国ソーグ研究所(Dr. Fred Gage) ポスドク研究員
1997 年 1 月	京都大学医学研究科脳神経外科 助手（復職）
2003 年 8 月	京都大学医学研究科脳神経外科 講師
2007 年 4 月	京都大学再生医科学研究所 生体修復応用分野 准教授
2010 年 4 月	京都大学 iPS 細胞研究所 臨床応用研究分野 准教授（兼任）
2012 年 7 月～	京都大学 iPS 細胞研究所 臨床応用研究分野 教授
2022 年 4 月	京都大学 iPS 細胞研究所 臨床応用研究分野 所長（2026 年 3 月まで）

主な受賞・栄誉

2005 年	Cell Replacement Therapy for Parkinson' s Disease Award by The Michael J. Fox Foundation for Parkinson' s Research
2018 年	日本再生医療学会賞（臨床部門）

◆受賞者 澤本 伸克（さわもと のぶかつ）
京都大学 医学研究科人間健康科学系専攻 教授

略歴

1994 年 3 月	広島大学医学部卒業
2001 年 3 月	京都大学大学院医学研究科博士課程修了 博士（医学）
2001 年 7 月	英国ロンドン大学インペリアルカレッジハーマスミス病院臨床研究フェロー
2013 年 10 月	京都大学医学研究科臨床神経学 講師
2015 年 6 月～	京都大学 医学研究科人間健康科学系専攻 教授

主な受賞・栄誉

2001 年	第 42 回日本神経学会総会 会長賞
--------	--------------------

＜バイオインダストリー大賞 特別賞 受賞理由(詳細)と略歴＞ 敬称略

【バイオインダストリー大賞 特別賞 受賞業績と受賞理由(詳細)】

「アイトラッキング技術を利用した次世代型認知症検査法の開発と臨床応用・海外展開」

大阪大学大学院医学系研究科の武田朱公准教授は、老年内科医として認知症診療に携わる中で、早期スクリーニング技術の必要性という切実な臨床課題に直面した。この課題解決を目指し、アイトラッキング技術を活用した革新的な認知機能評価法を独自に開発、その社会実装を一貫して推進してきた。本業績は、アカデミア発のシーズが実用化・産業化・国際展開へと結実した、極めて稀有な成功事例である。

認知症は高齢化の進展とともに患者数が増加し続けており、日本国内の認知症患者および軽度認知障害(MCI)患者数は合計1,000万人を超えるとされ、今後もさらなる増加が見込まれる。世界全体では現在5,000～6,000万人の認知症患者が存在し、2050年には1億5,000万人を超えると予測されている。早期発見・早期介入が重要であることは広く認識されているが、有効なスクリーニング法が確立されていないため、75%以上の患者が未診断のまま見逃されているとの報告もある。従来の問診式認知機能検査は、専門スタッフの必要性、心理的・時間的負担の大きさ、結果のばらつきといった課題を抱えており、大規模スクリーニングへの適用には限界があった。

武田准教授が開発したアイトラッキング式認知機能評価法は、約3分のタスク映像を注視する被検者の視線を汎用スマートデバイスで記録し、その視線情報の解析から認知機能を定量評価するシステムである。従来の問診式テストとの高い相関が実証されており、短時間・客観的・低コストという三つの優位性を兼ね備えている。さらに、本法の最大の革新性は言語依存性が極めて低い点にある。言語を介さずに認知機能を評価できることは、国内の多様な患者層への対応にとどまらず、海外展開においても決定的なアドバンテージをもたらす。認知症患者の半数以上が開発途上国に偏在する現状を踏まえれば、低コストかつ汎用端末で実施可能な本法は、世界標準の認知症スクリーニング法としての発展が十分に期待できる。

武田准教授はこの技術をアカデミアの立場でゼロから生み出し、JST大学発新産業創出プログラムSTARTの支援を受けて大学発ベンチャー(株式会社アイ・ブレインサイエンス)を設立した。国内大手AI企業や東京大学医学部発AIスタートアップ企業との共同研究により技術開発を加速させ、大阪大学との共同開発として医療機器化を推進した結果、2023年10月に認知症領域では日本初となる神経心理検査用プログラム医療機器(SaMD)として薬事承認を取得、2025年1月には保険適用を実現した。大手製薬企業との独占販売契約締結により全国の医療機関への展開が始まり、現時点で400以上の医療機関に導入され、保険診療の中で認知症医療に活用されている。医療機関にとどまらず、本技術の応用範囲はヘルスケア領域全体に広がっている。住民健診、介護施設、地域の健康イベント(阪急阪神グループ)、スポーツジム(COSPA社)、運転免許センターなどでの実証・活用が始まっており、2025年4月から開催された大阪・関西万博のヘルスケアパビリオンにおける脳年齢測定技術としても正式採用されるなど、社会実装の広がりが見え始めている。

国際展開においても着実な成果を上げており、世界13ヶ国で特許を取得し、すでに4ヶ国で薬事承認を取得している。現在は認知症患者数が最も多い東南アジアを中心に展開を進めており、タイ・マヒドン大学等との共同研究も準備が進められている。大手製薬企業の国際ネットワークを活用したさらなる海外展開も期待される。また、AIモデルを活用したより早期の認知機能障害検出アルゴリズムや、スマートフォンでの実施システムの開発も進められており、2026年中に治験準備を完了する予定である。

本業績は、臨床現場の課題発見から出発し、独創的な技術開発、大学発ベンチャーの設立、産学連携による製品化、保険収載、そして国際展開へと、一人の研究者が中心となってすべての段階を推進した極めて稀有な事例である。日本初の保険収載SaMDとして認知症医療に新たな選択肢をもたらし、世界標準の認知症スクリーニング法としての発展が期待される本業績は、バイオインダストリー大賞 特別賞に相応しいと高く評価された。武田朱公准教授はアイトラッキング法の基盤技術開発が評価され、第5回バイオインダストリー奨励賞を受賞しており、本業績によって、奨励賞の段階から更なる目覚ましい発展を遂げている。今後、本技術のさらなる精度向上と国際展開が進むことで、世界の認知症患者および予備軍の早期発見・早期介入に大きく貢献し、認知症にかかる社会負担の軽減と国民の健康長寿の延伸に寄与することが強く期待される。

◆受賞者 武田 朱公（たけだ しゅこう）

大阪大学 大学院医学系研究科 臨床遺伝子治療学寄附講座 准教授

大阪精神医療センター こころの科学リサーチセンター 認知症ユニットリーダー

略歴

2004年3月	北海道大学医学部医学科 卒業（首席）
2004年4月	大阪大学医学部附属病院 研修医
2010年3月	大阪大学大学院医学系研究科 博士課程修了（加齢医学教室）
2011年1月	東京大学大学院医学系研究科 特任助教（先端臨床医学開発講座）
2011年4月	日本学術振興会 特別研究員 PD（米国ハーバード大学医学部）
2013年2月	日本学術振興会 海外特別研究員（米国ハーバード大学医学部）
2015年2月	米国ハーバード大学医学部・マサチューセッツ総合病院 研究員
2016年4月～	大阪大学大学院医学系研究科 准教授（臨床遺伝子治療学講座）
（2020年4月より大阪府立病院機構大阪精神医療センター こころの科学リサーチセンター 診断・治療創生部門 認知症ユニットリーダー兼任）	

主な受賞・栄誉

2004年3月	第23回 高桑栄松賞
2009年5月	第9回日本抗加齢医学会総会 最優秀演題賞
2009年6月	第26回日本老年学会総会 最優秀演題賞
2009年	Asian Society Against Dementia 2009 (Seoul), Travel Grant
2009年10月	3rd ASAD2009, Best Scientist Award (Seoul)
2010年4月	第14回日本心血管内分泌代謝学会総会 Y. I. A.
2010年5月	第57回日本実験動物学会総会 若手研究者優秀発表賞
2010年6月	第10回日本抗加齢医学会総会 優秀演題賞
2010年9月	Molecular Cardiovascular Conference II Best Poster Award
2010年9月	4th AFLAS Congress Meeting: Y. I. A.
2010年10月	第31回日本肥満学会 若手研究奨励賞
2010年10月	加藤記念研究振興財団 第22回国際交流助成
2010年11月	先進医薬研究振興財団平成22年精神薬療分野萌芽研究助成
2010年12月	第18回日本血管生物医学会 Y. I. A. 優秀賞
2010年12月	（社）医学振興銀杏会 平成22年度国際学術交流助成
2011年1月	（財）日本心臓財団 第36回日本心臓財団研究奨励
2011年2月	10th ADPD (Barcelona) Junior Faculty Award
2011年9月	平成23年度 第26回 岡本研究奨励賞
2012年9月	第3回日本血管性認知障害研究会 Y. I. A. 基礎部門 最優秀賞
2012年9月	第3回日本血管性認知障害研究会 Y. I. A. 臨床部門 優秀賞
2015年5月	Poster of Distinction, Massachusetts General Hospital 9 th annual research fellow poster celebration, マサチューセッツ総合病院、ボストン
2016年8月	2016年 Premium Hypertension Conference 最優秀演題賞
2016年8月	第7回日本脳血管・認知症学会学術大会 Y. I. A.
2016年12月	脳心血管抗加齢研究会 2016 YIA 優秀賞

2017 年 6 月	2017 年度日本抗加齢医学会研究奨励賞
2017 年 6 月	第 17 回抗加齢医学会総会 最優秀演題賞
2017 年 6 月	第 59 回日本老年医学会学術集会 最優秀賞
2017 年 11 月	第 36 回日本認知症学会学術集会学会奨励賞（臨床研究部門）
2018 年 7 月	2018 年度日本神経科学学会奨励賞
2018 年	第 9 回日本脳血管・認知症学会 YIA 最優秀賞
2018 年	平成 30 年 第 8 回日本高血圧学会学術賞
2018 年	第 2 回先進医薬研究報告会精神薬療分野 最優秀若手研究者賞
2019 年 6 月	日本抗加齢医学会 第 1 回ヘルスケアベンチャー大賞
2019 年 11 月	2019 年度日本認知症学会 学会賞（基礎部門）
2020 年	日本心血管内分泌代謝学会 第 3 回中尾一和賞
2020 年	文部科学省「科学技術への顕著な貢献 2020」
2021 年	第 5 回バイオインダストリー奨励賞
2022 年	日本抗加齢医学会学会賞
2022 年	大学発ベンチャー表彰 2022 特別賞
2023 年	日本神経科学学会 Neuroscience Research 論文賞
2025 年	日本老年医学会 第 10 回老化および老年医学研究助成

（一財）バイオインダストリー協会について

1942 年設立の酒精協会を前身とし、発酵工業協会を経て、1987 年に財団法人バイオインダストリー協会へ改組・改称し、2011 年に一般財団法人へ移行した。バイオインダストリー分野の研究開発と産業発展を産・学・官による連携によって、総合的に推進する日本唯一の組織である。バイオインダストリーに関する科学技術の進歩を通じて、バイオインダストリーおよび関連産業の発展を図り、人々の生活の質の向上に寄与するために、先端技術開発から産業化に至るまでのさまざまな場面で社会に貢献している。会員数は、企業会員 396 社、公共会員 157 団体、個人会員 498 人である。（2026 年 3 月末現在）

【本発表資料についてのお問い合わせ先】

（一財）バイオインダストリー協会 広報部

電話：03-6665-7950

FAX：03-6665-7955

Email：jba.award@jba.or.jp

ホームページ：https://www.jba.or.jp/